

Japan Geoscience Union Meeting 2011

(May 22-27 2011 at Makuhari, Chiba, Japan)

©2011. Japan Geoscience Union. All Rights Reserved.



AHW027-01

会場:202

時間:5月23日 08:30-08:45

霞ヶ浦湖心観測所での長期フラックス観測の可能性：観測から得られた知見と課題 Long-term flux observation at Koshin Observatory of Lake Kasumigaura?

杉田 倫明^{1*}, 宮野 愛子¹, 伊倉 宏弥¹, 魏忠旺¹
Michiaki Sugita^{1*}, Aiko Miyano¹, Hiroya Ikura¹, Wei Zhong Wang¹

¹ 筑波大・生命環境・地球環境

¹Life & Environ. Sci., Uni.Tsukuba

霞ヶ浦（西浦）のほぼ中央部に位置する湖心観測所（国土交通省霞ヶ浦河川事務所）において、2007年6月より水蒸気、温度、風速、二酸化炭素の10Hzデータ、関連する気象、水文要素の平均量計測を継続して行っており、これらに渦相関法を適用することで蒸発量等のフラックス推定値が得られている。今回の発表では、渦相関法からの地点でのフラックス推定値と霞ヶ浦全体との関係、バルク係数と風速、湖流、安定度との関係、霞ヶ浦の水収支等に焦点を当てつつ、課題を整理して今後の研究の方向性を探るものとする。

キーワード: 霞ヶ浦, 蒸発, フラックス, バルク係数

Keywords: Lake Kasumigaura, Evaporation, Flux, bulk coefficient